

市庁舎の整備コンセプト・基本方針（案）

○行政運営の基本理念

市民が主役のまちづくり（市民の参画と協働）

○整備コンセプト

将来にわたって求められる庁舎の役割を考慮して整備コンセプトを定める。

交 流 と 協 働

～市民どうし、市民と行政の交流と対話からまちづくりを始める場～

○基本方針

整備コンセプトを念頭に以下に基本方針を定める。

1. 市民に親しまれる開かれた庁舎

- ・誰もが気軽に利用でき、市民が日常的に集い、触れ合い、交流する場としての機能。
- ・コミュニティや市民活動の拠点として、活用できる機能。
- ・市民と行政が力を合わせて市民協働を推進し、政策を創造していく場となる機能。
- ・市民、行政の情報発信の拠点となる機能。

2. 環境に配慮し安全・安心な庁舎

- ・計画（設計）、建設から運用、廃棄までのライフサイクルを通して、環境負荷が少なく環境保全対策の模範となる施設。
- ・十分な耐震性能を確保するとともに、災害時に自立可能な設備や備蓄があり、防災・災害復興拠点としての機能を発揮できる施設。
- ・市民の大切な財産や情報を預かるため、セキュリティ確保への配慮。

3. 市民が使いやすい庁舎

- ・市民ニーズの多様化、高度化、地方分権の推進、人口減少や少子高齢化など、行政需要の変化に柔軟に対応できる施設。
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーを積極的に導入し、子どもや外国人を含めた全ての人が使いやすい施設。

4. オフィス機能が高く時代の変化に対応できる庁舎

- ・業務間の連携や効率的な事務執行が図れるよう執務室や会議室、来庁者に対応する空間が効率的に配置された施設。
- ・躯体と比較して耐用年数が短い設備機器については、交換しやすくニーズに合わせて拡張・収縮が柔軟に行えるよう配慮。

5. 経済性に優れ長期間使い続けられる庁舎

- ・耐久性に優れ、長期間（目標：80年）使い続けられる施設。
- ・初期コストだけに捉われず、長期間使用し続けることを前提に、計画（設計）、建設から運用、廃棄までのライフサイクルを通して経済性の高い施設。

6. 公共施設マネジメントのモデルとなる庁舎

- ・検討プロセスや整備手法など、公共施設マネジメントのモデルケースとなる施設。